

CUBE

創刊号 1 キューブ
Summer, IHI PARKING
1992 NEWS



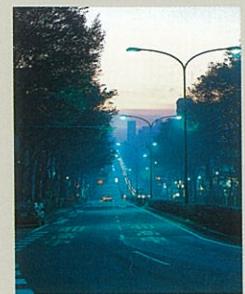
IHI
石川島播磨重工
パーキングシステム事業部



石川島播磨重工業株式会社
常務取締役 産業機械事業本部長

御子柴 隆夫
MIKOSHIBA TAKAO

CUBE
IHI PARKING NEWS
Summer, 1992 No.1



表紙のことば

東京・表参道。午前4時。
6月。晴れ。空。マロニエ。アスファルト。
昨日の残像。今日の予感。
交錯するCUBE—立体空間。
微風。静寂。眠らぬ街の東の間の休息。
6月。午前4時。晴れ。
東京・表参道。

C O N T E N T S

- 1 卷頭言 『CUBE(キューブ)』創刊にあたって
- 2 立体展望 都市空間のニューメディア "IHIシャトルパーキングシステム"
- 5 視点360° ●パーキング・ジャパン'92 やはり注目はIHIの技術
- 6 ユーザー訪問 ●東京銀座ビルディング モータリゼーション時代に先駆けた機能は今も…
- 9 パーキング百科 ●駐車場問題を考える 駐車場関連法令の動向について
- 11 サークル＆サークル 信頼をつなぐホームドクター、パークテック
- 13 映画に見るパーキング・シーン ●麗しのサブリナ “その恋はララビ一家のガレージからはじまった”
- 14 キューブコミュニティ 仙台に日本最大のタワーパーキング 創刊の趣旨 他

スペース効率のいい
大規模地下駐車場を
より速く、より多く、より安全に車を収容
できる地下駐車場——。IHIが都市における
大規模駐車場の理想を追求し、大成建設、
清水建設と研究開発を進めてきた新商品が、
この四月、「IHIシャトルパーキングシステ
ム」としてデビューした。

すでに知られているように、都市部を中心
とした駐車場不足は、今や深刻な社会問題と
なり、建設省や公共団体などは駐車場法の改
正を契機に、本格的な駐車場整備に取り組ん
でいる。なかでも注目されるのは、「都市空間
の有効利用」に重点を置き、公園や道路の地
下空間にスペース効率のいい「大規模地下駐

車場」を建設しようという計画があることだ。
こうした情勢に対し、地価の高い都市部では、現実にスペース効率のよくない地下自走式駐車場にかわって機械式の駐車場での計画が進行している。しかし、ひと口に機械式駐車場といつても、たとえばメリーゴーランド式の一基当たり三四台程度の収容能力で一台当たりの処理時間一分三〇秒程度では大規模駐車場とするのに限界があり、現代の都市生活によりマッチした駐車場を望む声は一段と高くなってきていている。

これら多様なニーズに応え、『人と車に優しいハイカオリティな大規模パーキング』をコンセプトに誕生したのが「IHIシャトルパーキングシステム」である。

D E V E L O P -
M E N T
立 体 展 望

深刻化する駐車場不足を受け、今、
都市では空間を有効利用した
大規模駐車場の建設が強く求められている。
これに大きく応えようと、IHIの長年の
ノウハウが結集された。
先端のパーキングテクノロジーから生まれたのは、
スペース効率が高く、入出庫がスピーディで、
しかも安全、快適、人手もかかるない
画期的なパーキングシステムである。

都市空間の ニューメディア "IHIシャトル パーキングシステム"

高 速度のパレット方式に 円滑性をプラス

IHIシャトルパーキングシステムは、入出庫のためのバースが別々になっている。入庫によって車を載せたパレットが自動的にリフトまで横移動する。同時に次の入庫車用の空パレットが送り出され、次のドライバーを待たせることはない。

車を載せたパレットはリフトで格納フロアまで垂直移動。そこでは速度300m／分の高速搬送台車がレールの左右にある格納棚にパレットごと収納していく。

出庫にはこの逆の手順を踏む。その際、空パレットを元の位置へ戻す必要があるため、パレット方式は円滑性が劣るといわれていたが、IHIシャトルパーキングシステムは、パレットを五枚まとめて処理するパレタイズ装置の開発によりパレットレス方式を上回る円滑性を獲得している。

大 規模、超高速、安全で 快適なシステム

次にIHIシャトルパーキングシステムの数ある特長を、六つに分けて紹介したい。

①パレット方式で車に優しい

パレットに車を載せて搬送、格納するため車と機械との接触によるトラブルがない。さらに、このパレットはドアプロテクター（オプション）の取り付けができるので、機械式駐車場に最も多いドアの閉め忘れによる事故

の車を一斉に入庫あるいは出庫させる時には同一機能のバースにして能力アップを図ることもできる。

②数千台まで対応可能

一ユニットに駐車できるのは最大一三八台（三段）。計画に応じてレーンを自由に増設することができるので、ユニットの組み合わせで数千台規模のものまで容易に構築できる。その容積効率は従来の自走式駐車場の約三分の一。このため、建築費用も同規模収容能力の地下駐車場の約二分の一にまでコストダウンできる。

③コンピュータ制御で人手がかからない

月極め車両のフリー・パス、空満管理の精度アップなど、入出庫時の省力化をねりつて開発された高精度な「車両ナンバー自動読取装置」をはじめ、システムコントロール、入庫案内、在庫管理、料金計算、売上管理などはコンピューターが一括管理。しかも、操作は特別の知識を必要としない簡単なもの。シンプルで人手のかからない運営管理が望める。

④人と車の動線を分離して安全、快適

入出庫は、リフト内に直接乗り入れず前進のみで済むので、女性や初心者でも安心して利用できる。また、入庫バースがそれぞれ分離しているため、歩行者の専用通路も確保される。人と車の動線の交差がなく高い安全性と快適な利用を実現する。

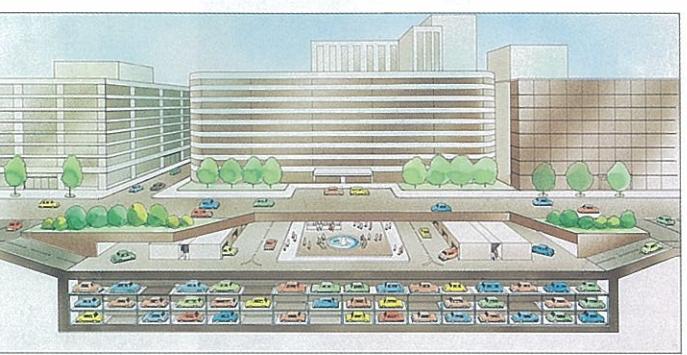
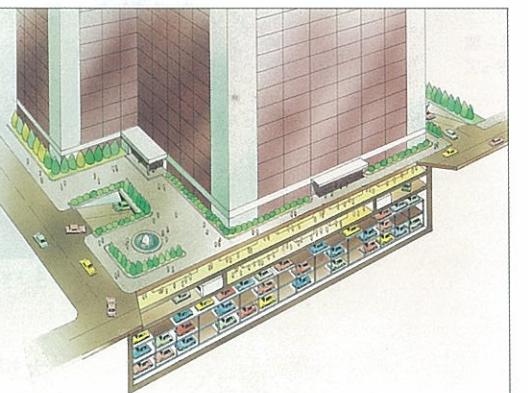
⑤メンテナンスに手がかかるない

大規模であるほど重要なのがメンテナンス。その点、IHIシャトルパーキングシステムはパレット方式の採用により、格納棚には無給油式フリーローラーを取り付けて機械装置を一切なくし、メンテナンスフリーとした。

も予防できるうえ、高速搬送中に風圧でドアが開いてもパレット外へ飛び出さないので、地下ピット内での大事故を未然に防止できる。

また、車に付着した泥、雪などの落下、オイル漏れやクーラー排水などによる汚れはすばてパレットで止るため、上部の車が下の車を汚すトヨタや搬送台車などたその汚れがリフトもなく、またその汚れがリフトや搬送台車などに悪影響を与えることもない。

ので、システム全体としての信頼性は非常に高い。

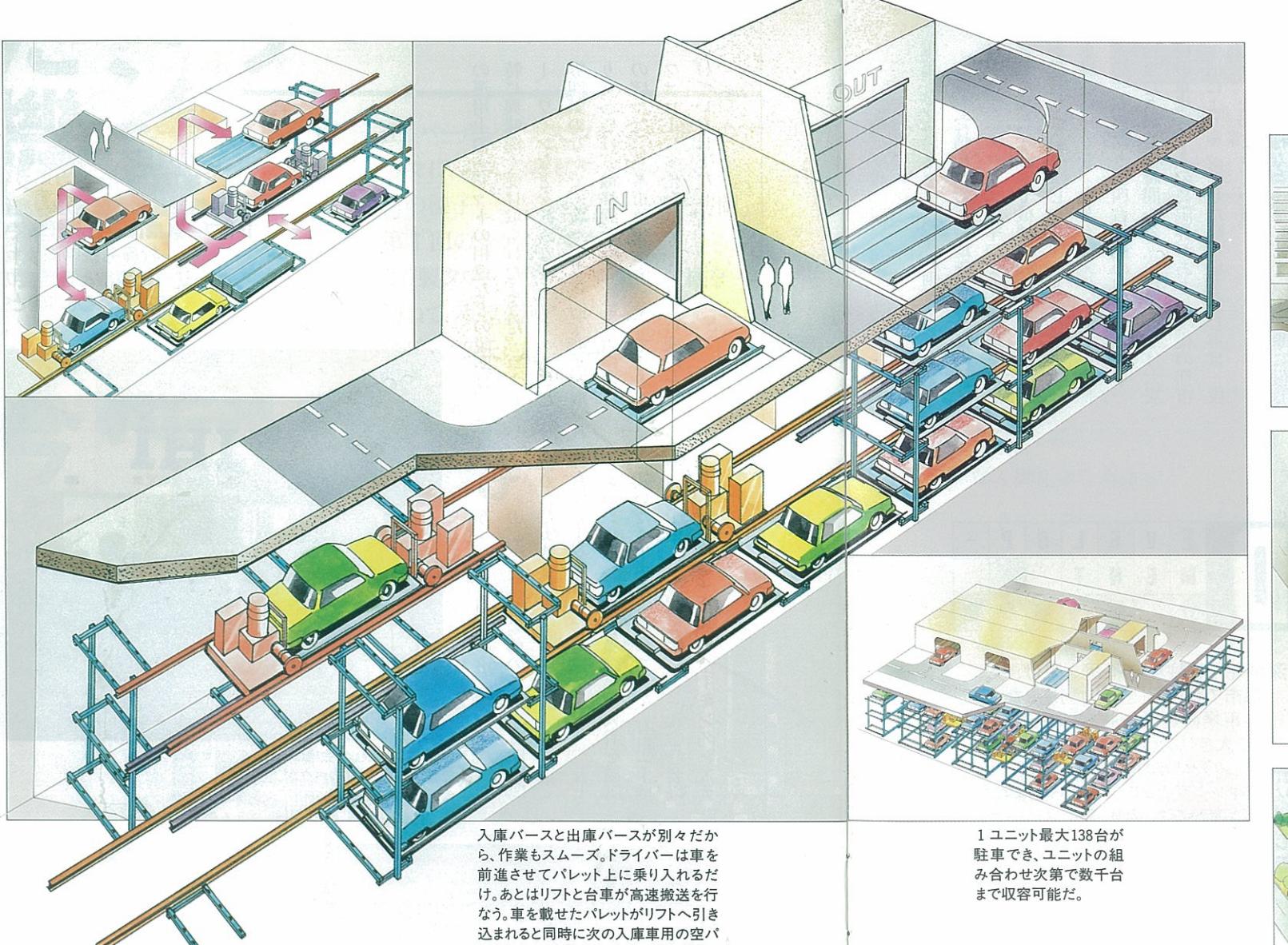



公共の広場や道路の地下に、ビルの地下に。IHIシャトルパーキングシステムは、地下空間の活用と抜群のスペース効率で限られた都市空間を有効利用。さらに、都市の景観を損なわないというメリットもある。

②入出庫がスピーディ

入庫と出庫が同時に、しかも200m／分の高速搬送台車と120m／分の高速リフト、画期的なパレタイズ方式によつてきわめてスピーディに行なえるので、ピーク時にも余裕を持って対応できる。従来の機械式駐車場と比較しても平均入出庫時間は約40秒以下と、およそ三分の一に短縮されている。

また、入庫、出庫の各専用バースの機能は反転が可能なので、各種イベントなどで多数



理 想の駐車場を生んだ IHIのテクノロジー

IHIは、機械式立体駐車場「タワー・パーキング」を国産第一号として昭和三十七年に納入して以来、トップメーカーとして安全で容積効率の高い立体駐車場の開発、建設に力をそそぎ、累計500基に及ぶ納入実績を持つ。また、自動倉庫の分野でも自動車メーカーやデイラー向けに数千台規模の新車保

管用立体自動倉庫を数多く搬入しており、「車の保管・保全」「タイムリーな入出庫」で高い評価を得ている。

この業界ナンバーワンの実績から生まれたIHIシャトルパーキングシステムは、新しい都市空間の有効利用という課題に応えるだけでなく、人にも車にも優しい、理想の都市型大規模駐車場を実現した。先端を行くパーキングテクノロジーの鮮やかな成果といえるだろう。



やはり注目はIHIの技術。

れしい誤算。東京・晴海の国際見本市会場で二月二十六～二十八日の三日間催された『第一回パーキング・ジャパン'92』(主催・ジエムコ日本経営、後援・立体駐車場工業会等、出展・一〇一社)の印象は、まさにそんな言葉でしか言い表されない。

駐車場の見本市は日本初の試み。開催前の予想来場者数は、三日間で一万人程度としていた。だが初日にすでに九一六五人、二日目には一万三千人を超す人々が訪れ、会場(東館)の一日入場者数の記録をぬりかえる盛況ぶり。最終的な来場者数は三万二四二五人となり、用意したパンフレットが不足するケースも生じた。なかでも会場中央部に最大規模で出展したIHIブースには、三日間で四五〇〇人(記名者のみ)もの人が訪れ、注目度の高さを示した。

今 回IHIが展示したのは、新製品・大

規模地下駐車場IHIシャトルパークリングシステムやタワーパーキングなどの模型のほか、駐車場の集中管理をするPINシステムのデモ機など。予想を大幅に上回る反響に、営業マンの対応もフル回転。タワーパーキングとエレベータパーキングと

日本初の駐車場見本市
『第1回パーキング・ジャパン'92』は予想を超える盛況ぶりで話題を呼んだ。IHIブースにはとりわけ多くの来場者が訪れ、社員も説明に大わらわ。ユーザーの期待と注目度の高さが改めて実感される3日間となつた。



101社が出演した会場は、連日1万人前後の人々がつめかける大盛況。

ム事業部の野口健夫技術部課長が講師を務めたセッション「機械式駐車場の種類と運び方」(テクニカルコース)の受講者は約一五〇名にのぼり、IHIのハード・ソフト両面に対する関心の深さがうかがわれる。

華々しくスタートした『パーキング・ジャパン』の第一回開催は来年二月。その際はスペースを今回の二倍に広げるほか、駐輪、駐艇の分野も含めて、さらに大規模なものが予定されており、新たな技術の展示に向けて今から熱い視線が注がれている。

もう一つ、この見本市で注目されたものが、展示会場前のホテルで同時開催された実践セミナー。行政・テクニカル・経営マネージメントなど、三コース、二五セッションに分かれ、各界の第一人者を講師に招いた大規模なものだったが、有料(事前申込九千円)にもかかわらず、一八〇〇名以上の参加を得た。IHIパーキングシステ



IHIパーキングシステムのユーザーの方々に、導入の経緯や当時の街の様子をお聞きする「ユーザー訪問」。第1回の今回は、現存するIHI製タワーパーキング第1号機を訪ねて、東京銀座ビルディングの島田正直氏にお話を伺った。

モータリゼーション時代に先駆けた機能は今も・・・。

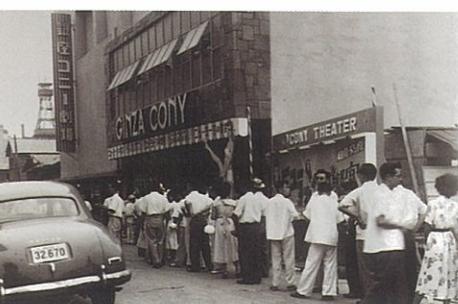
六〇年代の銀座は一段と華やかになり、クルマの数が急激に増えましたね

やかさと風格に充ちた日本のメインストリートである。

今回訪ねたのは、一九六三年(昭和三十八年)に、銀座初のタワーパーキング付ビルとして建築された「東京銀座ビルディング」社長の島田正直氏。大正三年生まれの氏は、戦後間もない一九五二年(昭和二十六年)、同地に「銀座コニー劇場」という映画館をつくり、六三年に地上六階(現在は七階)、地下二階のテナントビルに改築。現在は事務所、有名百貨店や専門店、企業のショールームなどが立ち並ぶ銀座。昔ながらの暖簾を守る老舗と最先端のファッショングッズが軒を連ね、街並みの格調高さに彩りを添えている。シャンゼリゼ通りやニューヨークの五番街と並び称される世界の銀座は、今も昔も華



銀座8丁目から4丁目を望む。ここ中央通りは通称銀座通りと呼ばれ、深夜までタクシーの列が続く。



昭和26年に建てられた「銀座コニー劇場」。開演を待つ人の服装や周囲の木造の建物などに当時の様子がうかがわれる。



銀座の街に時を告げる和光の時計台。



昭和39年の数寄屋橋交差点。この後、東京の路面電車は相次いで道路から姿を消していく。

1丁目から8丁目まで一直線に並ぶ銀座の中心、4丁目交差点。外国人観光客の多さも銀座ならではのこと。夕刻には、家路へ急ぐビジネスマン、OLや待ち合わせする人々で混み合う。



ナントビルを建てるからには、これからは駐車場がないとダメだってことになつて、限られたスペースをうまく利用できる立体駐車場を思い切って導入することにしたんです。テナント募集と一緒に、近くの事務所や店から駐車場を貸してほしいという声が集まりましたね。」

島田氏の先見の明を裏書きするかのよう、タワーパーキングは当時の銀座で話題になつたという。月極め以外にも時間貸しをしていたので、珍しいからと利用する客も大勢

いたようだ。料金は一時間300円、タクシ

ー初乗りは100円の時代だった。

「当時はそんなに立体駐車場なんてなかつた

でしよう。だからお客様もまだ慣れていない

からともう慎重ですね。それでもちょっとした

ハピニングがいくつかありました。ハンドル

を何回切り返してもタイヤを乗せられない方

や、前進しすぎて前面に貼つてあるミラーを

割つてしまふ方がたまにいらっしゃいました

よ。当初はまだ車止めがなかつたんです。ま

た、ミラー程度だからいいんですけどね。

「ドアミラー対策として全パレットの幅を広げました。また、乗用車の大型化に対応するため、一九八三年あたりから二、三台ずつ大型パレットに交換して、現在は一八台中八台が大型パレットです。もうそろそろ新しいシステムの導入を考えなければならない時期なのでしょうが、システムの信頼性とメンテナンスのよさで今なお動き続けてきているわけですから……。やはり、導入時にIHIのシステムを推薦してくれた友人の助言を聞いていてよかったです。」

銀座とともに生き、時代を超えて動き続けたIHIパーキングシステムを見守ってきた確かな眼が、優しく微笑んでいた。



「東京銀座ビルディング」社長の島田正直氏。日本の国際貢献にも強い関心を寄せる財界人の面立ちに、銀座の街と映画をこよなく愛した横顔が重なる。

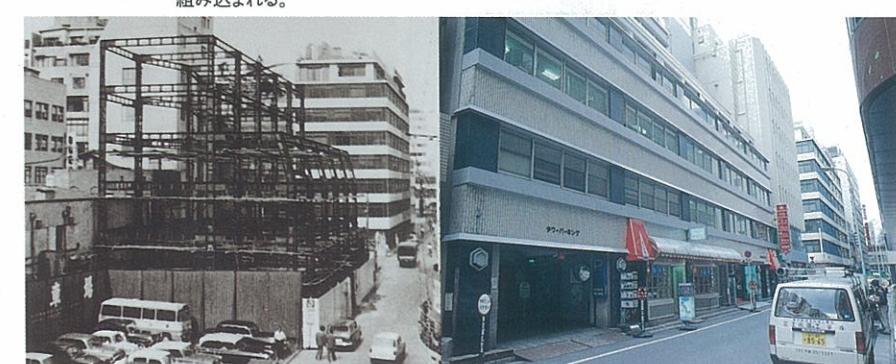
店舗を含め三五のテナントが入っている。一八台収容のタワーパーキングは、IHI製第一号機であり、今なお元気に稼働している。立体駐車場導入当時の銀座を振り返つて氏はこう語る。

「戦後を引きずつた一九五〇年代とうてかわつて六〇年代は庶民の生活水準も高くなつて、銀座の街も一段と華やかになります。ビジネスも活気づいてきて、はつとするほど女性がきれいになつてきたのもこの頃。生活にゆとりが出て、自分を磨くことを覚え

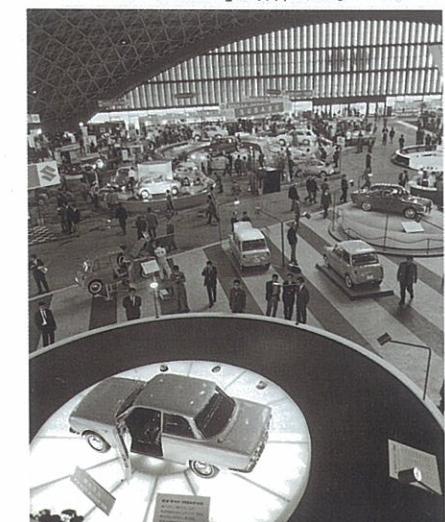
た。「日本を引ひきずつた一九五〇年代とうてかわつて六〇年代は庶民の生活水準も高くなつて、銀座の街も一段と華やかになります。ビジネスも活気づいてきて、はつとするほど女性がきれいになつてきたのもこの頃。生活にゆとりが出て、自分を磨くことを覚え



現在の月極料金は8万円。手入れのよさは30年を迎えるとしている装置であることを感じさせないが、上のグレーの壁の日英併記の表示板だけは歴史を物語っている。



昭和38年の第10回全日本自動車ショー。翌年から「東京モーターショー」に改名された。



島田氏が経営する東京銀座ビルディングは銀座六丁目、松坂屋の裏手に位置する。青空駐車の取り締まりが行なわれるようになつた翌年、一九六三年にビルの建設が始まった。

「日本一の繁華街として世界に名を轟かせた銀座なのに、当時はあまり駐車場がなかつたんですよ。一丁目と二丁目の間に、たしか一つか二つかありましたね。そこでテ

ラ時代だった。銀座では、一九六五年に都電が廃止され銀座通りは自動車天国へ。マイカー元年と呼ばれた六六年には、自動車保有台数が一千万台を超えた。

銀座では、一九六五年に都電が廃止され銀座通りは自動車天国へ。マイカー元年と呼ばれた六六年には、自動車保有台数が一千万台には名神高速道路が一部開通されるなど、モータリゼーションの波が急ピッチで押し寄せた時代だった。

オーブン時代に拍車をかけたのは、一九六〇年代。クルマで銀座にやってくる人が目立つて増えましたね。」

高度経済成長の最盛期を迎えた一九六〇年代は、まさにモータリゼーションの幕開けの時代だった。国産車も輸入車に負けない魅力的なニューモデルを発表。六一年の第八回全日本自動車ショー（現・東京モーターショー）からはコンセプトカーも多数出展され、翌六年には入場者が一〇〇万人を突破。全国の自動車保有台数は五〇〇万台を超えた。

スピード時代に拍車をかけたのは、一九六〇年代。クルマで銀座にやってくる人が目立つて増えましたね。」

場が珍しくてね。銀座でも話題になつたんですよ。

最近では以前から問題となっていた
都市中心部の商業系地域だけでなく、
居系地域でも違法路上駐車が大量発生し、
さまざまな交通問題や社会問題を引き起こしている。
のような状況を打開するため、関係諸官庁は
数年間さまざまな施策を打ち出しているので、
その動向について概括してみたい。

石川島播磨重工業株式会社
ペーリングシステム事業部技術部課長

野口 健夫

駐車場関連法令の動向について

標準駐車場条例の改正

駐車場法に基づき、地方公共団体の条例に基ついて、大規模な建築物ではその用途と規模に応じて駐車施設の設置が義務付けられる。この附置義務駐車場は、今では都市部における駐車場供給の大きな柱となっている。

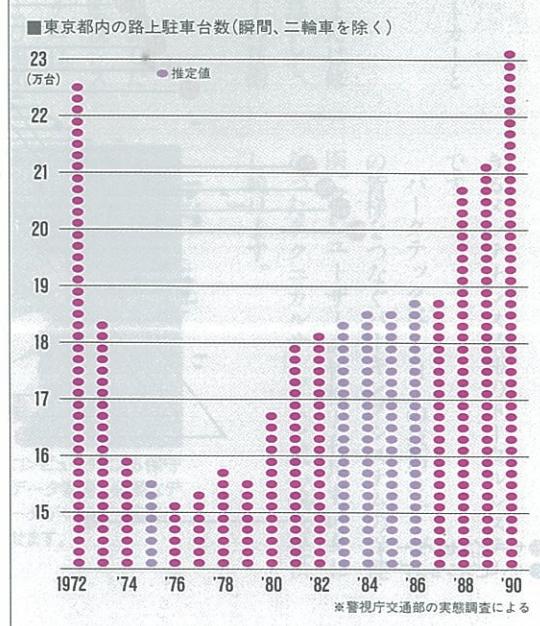
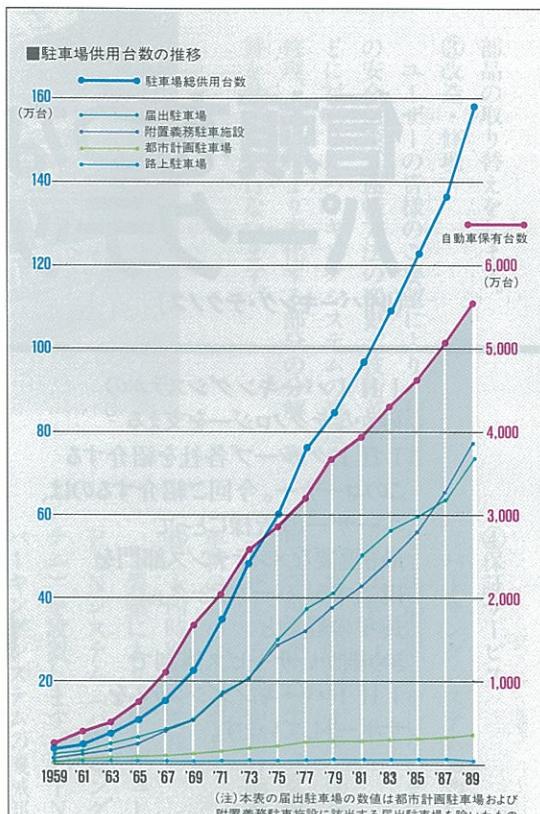
条例の雛型になる標準駐車場条例は、昭和三十八年に通達されたものである。建設省では現在の社会情勢を考慮し、昭和六十三年度に検討を開始し、二年間にわたる検討の成果を平成二年六月に改正標準駐車場条例として通達した。

改正標準駐車場条例では駐車需要および附

置義務駐車施設の実態を踏まえ、人口規模・建物用途・地域特性等を考慮したきめ細かい基準を設け、全体として附置義務が強化できよう配慮されている。附置義務強化だけではなく福祉政策との調和も配慮された通達に沿い、東京・大阪などの特定行政庁でも見直しが行なわれ、平成三～四年にはそれぞれの駐車場条例が改正施行されている。

道路交通法・保管場所法の改正

通鑑卷之二十一



建築物の床面積の合計の五分の一を限度として制限の対象となる延べ面積に算入しないことをとされている。しかし、駐車場不足の現状を踏まえると、これをさらに緩和する必要がある。自動車車庫が具備された大規模建築物の建設を促進するため、従来からある総合設計制度を適用する場合には、次のようなケーブルでは自動車車庫の設置量に着目し、建築物の床面積の合計の五分の一を超えた自動車車庫の部分についても一定の範囲を上限とした容積率の割増が条件付きで認められることになつた。

一層一段の自走式自動車庫について

簡易鉄骨造で一階部分と屋上部分を駐車の用に供する、規格化されあらかじめ加工されたパーツを組み立てて設置するプレファブ・パーキングと呼ばれる一層二段の自走式駐車場の築造が増加している。駐車場整備の有効な手段であるプレファブ・パーキングの安全を確保し普及を促進するため、建築基準法第三八

た。今国会でも引き続ぎ駐車場については駐車場整備に係わるさまざまな改正が行なわれる予定である。これ以外にも税制優遇措置の面でも駐車場整備を促進する意味から、主要な路外駐車場については、不動産取得税および固定資産税の特例措置が講じられている。

駐車場整備を総合的かつ計画的に推進し、安全かつ円滑な道路交通の確保を図る観点からさまざまな施策を強力に推進するため、道路管理者に関する規定を設けた道路法ならびに市町村の駐車場整備地区における路上駐車場および路外駐車場の整備計画の策定義務や附置義務対象建築物の面積の下限を三〇〇〇m²から一〇〇〇m²に引き下げるなどと内

道路法・駐車場法の改正
指針も定められ、すでに認定品が設置されて
いる。

道路法・駕車場法の改正

駐車場関連法令の最近の動向について網羅的に取り上げて概観してみたが、駐車場問題がこれらの施策ですべて解決されるというわけではなく、これからもいろいろな施策が実施されると思われる。われわれ駐車場関係者としては今後の動向にも注意する必要があるう。

ハロンには、低毒性、高浸透性などの利点があり、わが国では消防用ハロン使用量の二五%以上が駐車場で使用されている。一方、ハロンはオゾン層破壊物質に関するモントリオール議定書においてオゾン層を破壊する特定物質として、特別な用途を除き二〇〇〇年一月一日以降全廃されることになつていて。このような状況を踏まえ、消防庁では平成二年七月よりハロン消火設備の代替設備や使用抑制の手法について検討を行ない、この結果が平成三年八月に通達された。今年度より第一段階の使用抑制が行なわれている。

成三年七月より施行され、車庫までの距離の緩和、軽自動車の保管場所の届出、保管場所の標章（シール）貼付の義務付けなど、罰則、罰金の強化が図られている。

自動車車庫に関する用途規制

建築基準法では、住居系地域の自動車車庫については、良好な住居環境の確保を優先するため一定規模以上の自動車車庫建設は特別な場合を除き規制されている。今までには各用途地域に建築される住居のため必要な車庫については、現在の用途規制の規定範囲内でも問題ないと考えられていたが、自動車社会の進展に伴い現行規制の範囲内に収まらない場合が多くなってきてている。

こうした状況に対応して、車庫に関する許可準則を制定して、位置、規模、構造が一定の条件を満たし、住環境を害するおそれがないと認められる場合には、建築物に付属する住居数に対応した車庫の設置、周辺の居住者が保有する独立した車庫の設置、住宅団地における相当規模の車庫の設置などが条件付で認められるようになった。

自動車車庫に対する容積率の取り扱い

現行建築基準法でも、建築物の自動車車庫については、容積率制限の適用に当たって、

IHIに直結した
メンテナンスの専門会社

「パークテック」は、IHIが納入した日本のパーキングシステム第一号機以来、豊富な経験と優れた技術力でIHIパーキングシステムのメンテナンスを専門的に実施しています。

全国二ヵ所のサービスセンター、六六カ所のサービスショップをネットに、常にユーザーの皆様の立場に立った保全業務を二十四時間体制で提供しています。

日常の保守・点検が
メンテナンスの基本

IHIパーキングシステムの利用者の安全と、機械装置が長期間にわたって円滑に稼働し、機能し続けるためには、装置の保守・点検が最も重要です。万が一の異常や故障の際も、日頃の保守・点検により集積されたデータの分析と豊富な経験により復旧作業も迅速、かつ確実に行なわれます。また、これら的情報は、駐車場の経営や次期計画の参考としても活用されています。

IHIとユーザーを
結ぶホームドクター

常にユーザーの皆様と接する立場にあるパークテックは、その経験と実績を生かしたパーキングシステムの「ホームドクター」です。個々のパーキングシステムについてのカルテを作成し、履歴を管理しており、次のようなテクニカルサービスを提供しています。

①保守・点検

パーキングシステムを長期間にわたって安全かつ効率的に稼働させるため、機械装置の特性や利用頻度などを考慮した計画的な保守・点検、調整を実施します。

②部品提供

日常の点検を通じて、品質維持に必要な

③改造・修理

ユーザーの皆様のご要望により、利用者の安全対策、運転方法の変更、技術革新などに対応したパーキングシステムの改造や修理、経年により変化する部分の分解・取替を計画的に行ないます。

④保証サービス

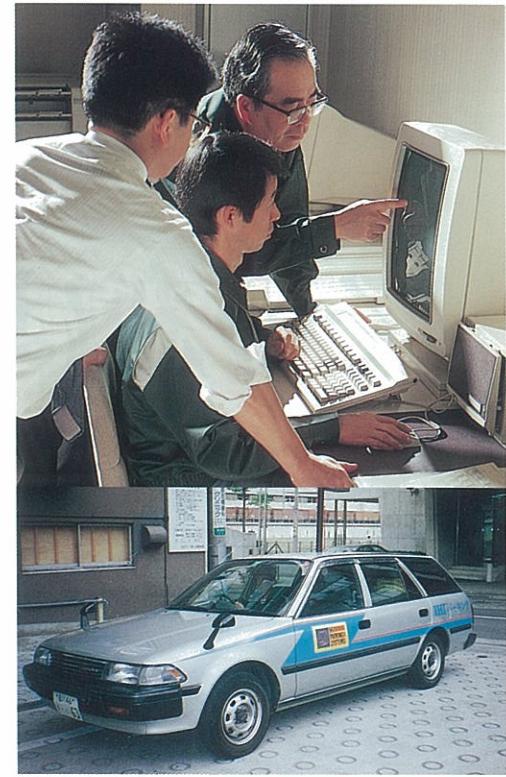
パーキングシステムについてメーカーとしての品質保証を行ないます。

⑤情報管理

定期点検時のデータ、保全工事または修理・改造工事等のデータを収集・管理して、ユーザーの皆様の次期計画やIHIの技術革新のために役立てます。

⑥二十四時間常時監視

ご要望により、コンピュータと連動したPINシステム（パーキング常時監視システム）を設置します。PINシステムは、パーキングシステムの機械部分および電気部分が正常に動作している状態をコンピュータにより常時監視しています。万が一、異常が発生した場合にはセンサーが異常を感知して、電話回線を通じリアルタイムにPINセンターに通報。ロースタイムがなく復旧できるシステムです。また、通常の運転操作方法等に関する問い合わせや緊急時の通報にも直通インターホンで即座に応答で



IHIパーキングシステムの特性を熟知した専門技術者が、豊富な経験とデータに基づいてアドバイスします。

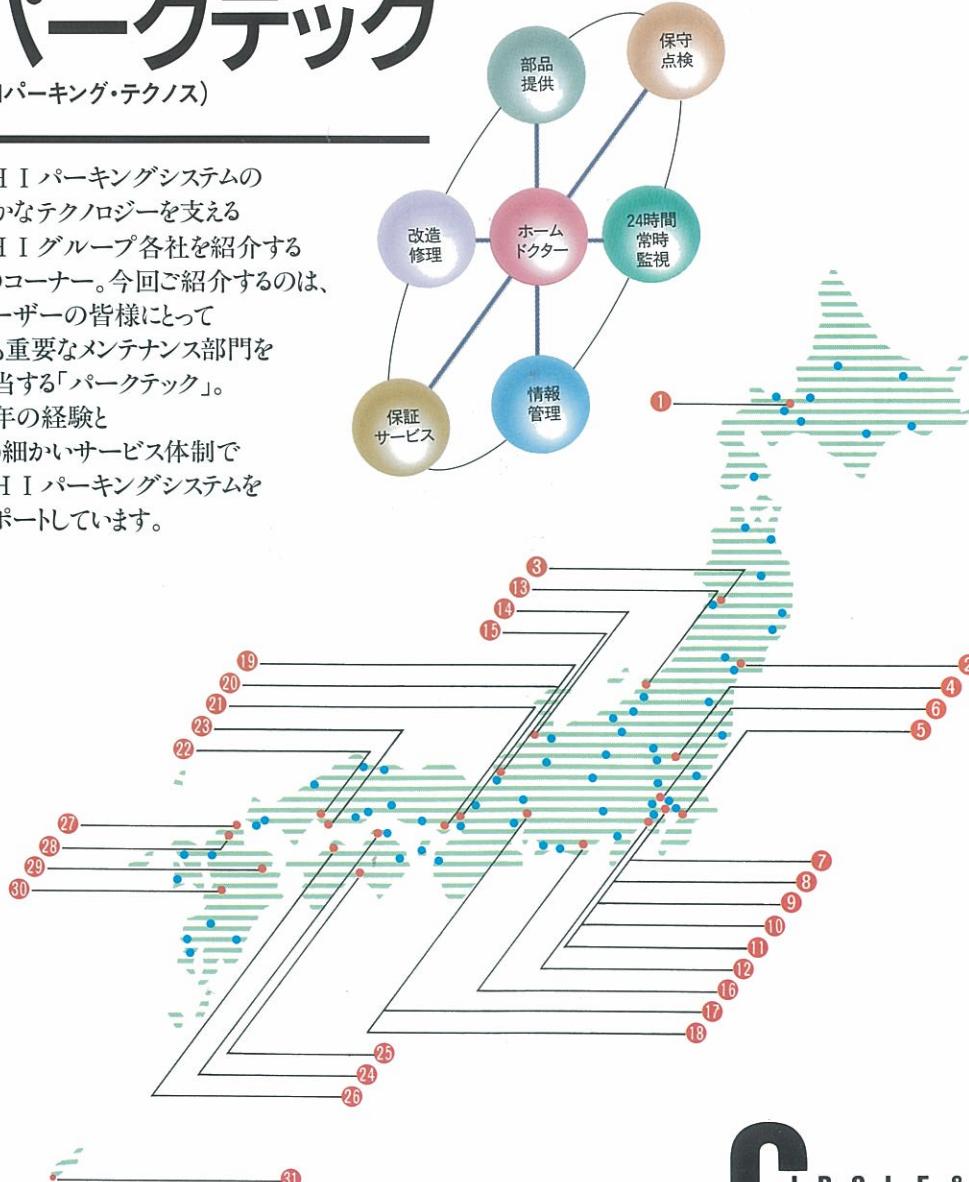


コンピュータによる保守データ管理。必要なデータがいつでも取り出せます。

信頼をつなぐホームドクター パークテック

(IHIパーキング・テクノス)

IHIパーキングシステムの確かなテクノロジーを支えるIHIグループ各社を紹介するこのコーナー。今回紹介するのは、ユーザーの皆様にとって最も重要なメンテナンス部門を担当する「パークテック」。長年の経験ときめ細かいサービス体制でIHIパーキングシステムをサポートしています。



■パークテック
(正式名称 株式会社アイ・エイチ・アイ・パーキング・テクノス)
昭和40年 機械式駐車設備の整備、改修等のアフターサービス業「日本駐車場サービス株式会社」として創立。
昭和46年 石川島播磨重工業株式会社より資本参加を得る。
昭和48年 石川島播磨重工業株式会社の関連会社となる。
昭和49年 石川島播磨重工業株式会社の機械式駐車設備専門サービス機関として全国サービス網管理を委託される。
昭和63年 石川島播磨重工業株式会社が100%株主となる。
平成3年 「株式会社アイ・エイチ・アイ・パーキング・テクノス」に社名変更。

■サービスセンター

- ①札幌サービスセンター（札幌市）
- ②東北サービスセンター（仙台市）
- ③秋田サービスセンター（秋田市）
- ④北関東サービスセンター（宇都宮市）
- ⑤千葉サービスセンター（千葉市）
- ⑥埼玉サービスセンター（浦和市）
- ⑦東京第1サービスセンター（台東区）
- ⑧東京第2サービスセンター（港区）
- ⑨東京第3サービスセンター（千代田区）
- ⑩東京第4サービスセンター（渋谷区）
- ⑪東京西サービスセンター（立川市）
- ⑫横浜サービスセンター（西区）
- ⑬新潟サービスセンター（新潟市）
- ⑭金沢サービスセンター（金沢市）
- ⑮福井サービスセンター（福井市）
- ⑯静岡サービスセンター（静岡市）
- ⑰名古屋第1サービスセンター（中区）
- ⑱名古屋第2サービスセンター（東区）
- ⑲大阪第1サービスセンター（北区）
- ⑳大阪第2サービスセンター（浪速区）
- ㉑神戸サービスセンター（神戸市）
- ㉒広島サービスセンター（広島市）
- ㉓呉サービスセンター（呉市）
- ㉔高松サービスセンター（高松市）
- ㉕高知サービスセンター（高知市）
- ㉖松山サービスセンター（松山市）
- ㉗北九州サービスセンター（北九州市）
- ㉘大分サービスセンター（大分市）
- ㉙福岡サービスセンター（福岡市）
- ㉚熊本サービスセンター（熊本市）
- ㉛沖縄サービスセンター（那覇市）

■サービスショップ

北海道：釧路市・帯広市・旭川市・函館市・岩見沢市・北見市・小樽市・千歳市・札幌市
東北：青森市・八戸市・盛岡市・金石市・秋田市・山形市・気仙沼市・仙台市・郡山市・いわき市
関東甲信越：水戸市・船橋市・本庄市・高崎市・川越市・東京都（江戸川区・港区・練馬区）・長野市・野沢温泉・松本市・甲府市・横浜市・厚木市・新井市・十日町市・三条市
北陸：富山市・福井市
中部：浜松市・沼津市・豊橋市・岐阜市・高山市・四日市市
近畿：大阪市（淀川区）・京都市・姫路市・洲本市・和歌山市
中国：岡山市・尾道市・徳山市・鳥取市・米子市・小郡町・宇部市・江津市
四国：高松市・徳島市
九州：久留米市・長崎市・佐世保市・宮崎市・人吉市・川内市・鹿児島市

